



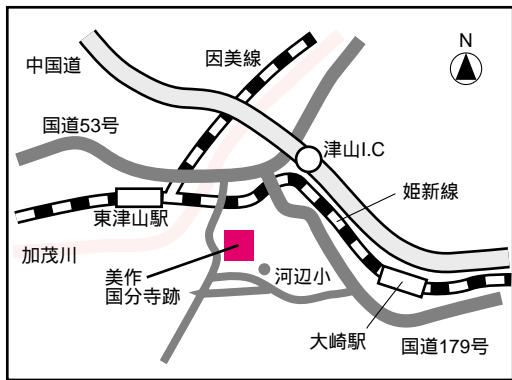
確認調査時の写真（現状とは異なります）

美作国分寺跡が国指定史跡に

市内国分寺の「美作国分寺跡」が、国の史跡に指定されました。これは、11月に開かれた国の文化審議会において、文部科学大臣に答申があったものです。

美作国分寺は天平13年（741）、聖武天皇の詔勅により全国に造営された古代寺院の1つですが、鎌倉時代以降は廃れ、一帯が水田化していったため、当時の正確な位置や寺の規模、建物の配置など詳しいことはまったく分かっていませんでした。市では、その実態を明らかにし保存するため、昭和51年度から4年をかけて確認調査を行いました。その結果、美作国分寺

は2町四方（約220メートル四方）の敷地を持ち、南門、中門、金堂、講堂が南北一直線上に並び、中門と金堂が回廊で結ばれ、その外側に塔を配置するという、総本山となる奈良の東大寺とよく似た典型的な国分寺式の建物の配置だったことが分かりました。また、創建時に屋根に葺かれた軒瓦の様子は、平城宮で用いられたものと非常によく似ていたことから中央政府との強い関係も想定されます。



美作国分寺跡についてのお問い合わせは、**市教委文化課 424-8413** へご連絡ください。

統計で見る津山市のすがた⑭

平成12年国勢調査から「就業者の産業編」

今回は市内に住んでいる人たちが、どのような産業に就業しているかを国勢調査の結果から見てみたいと思います。

左のグラフは、昭和35年から平成12年までの常住する就業者の産業の推移を示しています。また、平成12年については、県下の状況と全国の状況も掲載しています。

これを見ると、40年前には約37パーセントを占めていた第1次産業（農業、林業など）が現在では5パーセント強にまで減少し、第2次産業（製造業、建設業

など）、第3次産業（卸売業、小売業、サービス業など）に移行しているようすがうかがえます。

また、全国平均と比較して特徴的なこととして、岡山県、津山市とも第2次産業の占める割合が高いことがあげられます。岡山県では水島工業地帯、津山市では市内や近隣町村の工業団地をはじめとする製造業の集積が大きく影響していると思われま

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
昭和35年津山市	36.58%	20.85%	42.57%
昭和45年津山市	23.55%	26.22%	50.23%
昭和55年津山市	11.39%	30.18%	58.43%
平成2年津山市	7.55%	33.70%	58.75%
平成12年津山市	5.32%	32.28%	62.40%
平成12年岡山県	6.53%	32.38%	61.09%
平成12年全国	5.04%	29.49%	65.47%